

市制施行20周年記念

令和7年度 第9回いちき串木野の歌人 萬造寺齊顕彰

黎明の地 ふるさと短歌大会集



入賞者全体写真（授賞式より）

主 催 羽島史跡顕彰会・いちき串木野市・いちき串木野市教育委員会
主 管 黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
後 援 鹿児島県・鹿児島県教育委員会・県文化協会・県歌人協会
市文化協会・南日本新聞社・れいめい羽島協議会



萬造寺齊顯彰の歌碑（羽島崎神社境内）

表紙題字 堂元一静 氏(書道家:いちき串木野市出身)

〔主な経歴〕

2003 世界水フォーラム動書大賞受賞

2005 日本書道美術院展かなの部 全日本書道連盟賞受賞

2006 // 毎日新聞社賞受賞

その他数々の賞を受賞し、多くの個展を開催している。

目次

黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって	いちき串木野市長	中屋 謙治	1
選 評	審査委員長	鶴田 直樹（歌人）	2
黎明の地ふるさと短歌大会の概要			5
大賞および各部の最優秀賞			8
小学生の部			11
中学生の部			21
高校生の部			31
一般の部			41
留学生の部			47
応募校一覧			49

市制施行二十周年記念

令和七年度いちき串木野の歌人 萬造寺斉顕彰

第九回黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって

いちき串木野市長 中屋 謙治

いちき串木野市は、めざす将来都市像を「ひとが輝き文化の薫る世界に拓かれたまち」と掲げ、人が輝き、地域が輝く市政の推進に取り組んでいます。また、教育委員会では、活力ある教育・文化の振興を図るべく、『「認め」「支え」「学び」とともに未来を創る人づくり』を基本理念に掲げ、さまざまな事業を展開してきております。

さて、本市では、羽島出身の歌人「萬造寺斉」先生を顕彰するため、地域の方々、七月九日の命日に先生の墓前で望郷歌を歌う「墓前祭」を毎年実施されており、平成二十九年には先生の没後六十年を迎えるにあたり、羽島史跡顕彰会の方々が中心となって、小説「緑の国へ」を出版しました。また、歌人・萬造寺斉の望郷歌集の小冊子を発行されるなど、継続した顕彰活動に尽力されております。

市といたしましても、地域と一緒に万造寺斉先生を顕彰するために、今回で九回目の短歌大会を実施いたしました。年を重ねるにつれて県内だけでなく、本市にゆかりのある県外の方からの応募も増えてきています。これもひとえに、黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会の皆さんをはじめ県歌人協会の先生方、本大会への応募に関わっていただいた多くの皆さまのご尽力の賜物と存じます。

集まった作品は、県歌人協会のご協力の下、厳正なる審査を行い、大賞をはじめ多くの優秀作品が選出されました。十一月十五日には、いちきアクアホールにおいて、大賞他三十二作品の授賞式を執り行い、この度、優秀作品等を掲載した作品集刊行の運びとなったところであります。

短歌はその時々、世相を反映しながら、脈々と創作が続けられてきた日本古来のものであります。本市の短歌大会が、千数百年来の伝統的文化である短歌にこれまで以上に親しむきっかけとなり、ひいては、文化の振興につながっていくことを期待して、刊行にあたってのあいさついたします。

選 評

審査委員長（鹿児島県歌人協会会長） 鶴田 直樹

いちき串木野市市制二十周年の今年、黎明の地ふるさと短歌大会も第九回を迎えました。今回は三千九百十四首の歌が寄せられました。作品をお寄せ下さった皆様、ありがとうございます。

帰り来てひと日岸うつ波の音聞けと呼ぶなり遠きふるさと

生涯ふるさと羽島への望郷の思いが胸にあった萬造寺斉を顕彰して始まった短歌大会、今年も郷土色あふれる秀歌が寄せられました。

そして第九回黎明の地ふるさと短歌大会大賞の荣誉に輝いたのは、日置市立東市来中学校二年 音田おんだ桧菜ひなさんの歌です。

時を越え守り継がれる窯元にあの人の手も歴史の一つ

四百年以上の歴史を持つ薩摩焼の里美山、地域の歴史を学び歌にしたのでしょうか。「あの人の手」に焦点を絞り、伝統工芸の技が人の手によって受け継がれて、歴史が紡がれるという秀歌です。

次に各部門最優秀賞の歌を紹介します。

小学生の部 最優秀賞

おとうとのたいそうふくのむなもとにかいてあるのはわたしのなまえ

薩摩川内市立亀山小学校三年 黒屋 沙桜さくら

小さくなった体操服を弟にお下がりしたのでしょうか。男の子の胸元には女の子の名前、少し照れくさいような誇らしい喜びが伝わります。

中学生の部 最優秀賞

資料館原爆の罪置かれるや心に残る横たわる子ら

鹿児島市立松元中学校二年 山下 紋斗 もんと

戦後八十年たち、その体験者が少なくなる中、原爆資料館で見たことを心で受け止め歌にしています。その悲惨さだけでなく「原爆の罪」が置かれているとしたことで、今も続く被爆者たちの闘いにつながるようです。

高校生の部 最優秀賞

図書館で涼む午後には本の森旅に出かける僕と夏風

県立串木野高等学校二年 川添 丈一郎

涼みに訪れた図書館、手にした一冊の本から爽やかな夏の風と始まる旅、とても素敵なお歌が生まれました。ぜひ図書館の司書の方に見せてあげてください。

一般の部 最優秀賞

米の値が高騰したらし田植え機は己が時給を計算はじめ

霧島市 児玉 久

瑞穂の国でおきた今年の米不足、高値が騒動になりましたが、米農家の時給が十円にも満たないと知り驚きました。米の高騰を他人ごとのように感じているのは作者なのだろうが、田植え機が時給を計算している客観性が生きました。

留学生の部

闇に隠れ世界に知られず紅満あかちる青天白日せいてんはくじつたなびく国旗

神村学園専修学校日本語学科二年 張チヨウ 宇成ウセイ (台湾)

東洋の真珠の輝き海の底殻を閉ざして光失う

神村学園専修学校日本語学科二年 CHANチャン DICKディ HANGハン (香港)

なおるようおいのりをしてしゃんみるしゅじゅつが**ん**ばれ日本のお父さん

神村学園専修学校日本語学科二年 BUDHAブッダ SITAシタ KUMARIクマリ (ネパール)

雨季の村緑のはたけカエル鳴き花のにおいといっしょに帰る

神村学園専修学校日本語学科一年 AYEエー MYATミヤット MONモン (ミャンマー)

アジアの国々から日本語を学びに来て、短歌にチャレンジしてくださいうれしく思います。やましいことは一切ないという気持ちで、母国を愛する心を強く感じました。日本から母国を俯瞰することで、素晴らしい歌が生まれました。また人の思いは、どの国でも同じなのだと感動しました。これからも両国の架け橋となっていくってください。

以上大賞・最優秀賞・留学生の部しか紹介できませんでしたが、今年も秀歌が目白押でした。先生方のご指導の賜物と存じます。心より感謝申し上げます。

最後にいちき串木野市をはじめ実行委員の皆さま、学校運営にご多忙の中応募して下さいました先生方に心より感謝申し上げます。

黎明の地ふるさと短歌大会の概要

一 趣 旨

本市が輩出した歌人、萬造寺齊氏を顕彰するとともに、市の将来都市像「ひとが輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」と教育行政の基本理念である『「認め」「支え」「学び」とともに未来を創る人づくり』の体現を目指します。

二 主催等

- (一)主 催 羽島史跡顕彰会、いちき串木野市、いちき串木野市教育委員会
- (二)主 管 黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
- (三)後 援 鹿児島県、鹿児島県教育委員会、県文化協会、県歌人協会
市文化協会、南日本新聞社、れいめい羽島協議会

三 応募作品数について

- (一)小学生の部 七百十三首
- (二)中学生の部 千八百五首
- (三)高校生の部 千百七十二首
- (四)一般の部 百七十三首
- (五)留学生の部 五十一首

計 三千九百十四首

四 各賞について

【入 賞】

- 大 賞 全部門の中から一名
 - 最 優 秀 賞 各部門一名（小、中、高、一般の四部門）
 - 優 秀 賞 各部門一名
- 〃

市長賞	各部門一名	〃
県歌人協会賞	各部門一名	〃
選者賞	各部門一名	〃
教育長賞	各部門一名	〃
南日本新聞社賞	各部門一名	〃
留學生賞	全部門の中から四名	
特選	【小 二十首】	【中 二十首】
入選	【小 三十首】	【中 三十首】
		【高 二十首】
		【一般 二十首】
		【一般 三十首】

五 表彰式について

日時 令和七年十一月十五日（土） 午後一時三十分から

会場 いちき串木野市 いちきアクアホール

式順 〈オープニング〉 望郷歌 コールあじさい

開会のことば

実行委員会あいさつ…………… 枇榔秋信会長

市長あいさつ…………… 中屋謙治市長

来賓・主催者紹介

表彰

選評…………… 鶴田直樹審査委員長

閉会のことば

六 選者（一次審査及び本審査）

鶴田 直樹

所属等 県歌人協会会長 にしき江主幹 読売新聞薩摩よみうり文芸歌壇選者

表彰 平成二十七年南日本文化賞受賞（錦江社「にしき江」）

作品 現代鹿児島短歌大系 21

鏑流馬 みどり

所属等 県歌人協会事務局長・県歌人協会青少年短歌育成委員長 「黎明短歌会」運営委員

表彰 平成九年黎明賞（結社賞）受賞 平成十五年平成の歌会平安神宮賞受賞

作品 現代鹿児島短歌大系 19

黒瀬 圭子

所属等 県歌人協会運営委員 にしき江編集委員

表彰 第七回海南賞（結社賞）受賞

寺地 悟

所属等 南船社編集委員

平野 淳子

所属等 県歌人協会運営委員 山茶花社会員（結社名「山茶花社」）

表彰 平成二十七年山茶花賞受賞

大賞および各部の最優秀賞

【黎明の地ふるさと短歌大会 大賞】

時を越え守り継がれる窯元に

あの人の手も歴史の一つ

日置市立東市来中学校二年 音田 桼菜

【小学生の部 最優秀賞】

おとうとのたいそうふくのむなもとにかいてあるのはわたしのなまえ

薩摩川内市立亀山小学校三年 黒屋 沙桜

【中学生の部 最優秀賞】

資料館原爆の罪置かれるや心に残る横たわる子ら

鹿児島市立松元中学校二年 山下 紋斗

【高校生の部 最優秀賞】

図書館で涼む午後には本の森旅に出かける僕と夏風

県立串木野高等学校二年 川添 丈一郎

【一般の部 最優秀賞】

米の値が高騰したらし田植ゑ機は己が時給を計算はじむ

霧島市 児玉 久

小学生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

じびきあみ大きな網で綱引きだ海の欠片が網にかかつて

いちき串木野市立市来小学校六年 刈脇 琉乃佑

【市長賞】

つりあげたフグがあばれて水しぶききらひかつてにじ色になる

いちき串木野市立羽島小学校四年 小野 水輝

【県歌人協会賞】

散歩道いぶすかつおのにおいの中兄だからこそしゃべる日常

南九州市立霜出小学校六年 笹山 みのる

【選者賞】

かたつむりお花の上でひと休みわたしもゆっくりおうちにかえろう

薩摩川内市立平佐東小学校二年 勇 花奈

【教育長賞】

本を読む楽しい時間ゆったりと入りこむのだ自分の世界に

南九州市立知覧小学校六年 山内 美咲

【南日本新聞社賞】

特攻の桜の道を友と行く関西弁がふいに聞こえる

南九州市立知覧小学校六年 石堂 縁

【特 選】

種子島うちゅうへ荷物たねがしまが運にもつばれるとうとう最後さいごのH2Aエイチツーエー

どくだみのつんとしているいい香り夏はがらりとすがたをかえる

ときすましころをしずめ書に向かうふでのささやき墨の香り

さらさらと言葉も交さず去るきみへ吹上浜の波だけが鳴く

手に持ったいねを田んぼの土の中足もいっしょにしずんでいった

風をきってどんどんすすむぞーりん車なんでもころんでやつとのれたよ

夏祭り屋台いっぱいまようけどみんなでのんだラムネが一番

教室はみんながいればうるさいが一人欠ければちよつと静かだ

はつ田植えぬきあしさしあししのびあしわたしが植えたらまがりくねったよ

集まればすぐにお酒でさわぐ町たいくつなのをごまかしてるの？

昼ねしてコマツヨイグサかくれてた月にてらされひそかにさいた

南より帰るつばめは空を切り進級ひとつ胸はずませる

ランドセルはじめおもたいおどろいたすいとうもてばすきつぶできた

湧水町立幸田小学校五年 加藤 慧

いちき串木野市立串木野小学校五年 石野 葵咲陽

いちき串木野市立串木野小学校六年 久木山 心咲

いちき串木野市立照島小学校五年 濱邊 和葵

いちき串木野市立羽島小学校四年 岩切 結衣

いちき串木野市立旭小学校三年 高嶺 隼人

いちき串木野市立旭小学校五年 高原 陽菜乃

いちき串木野市立生福小学校六年 黒木 健介

いちき串木野市立市来小学校五年 池之上 希実

いちき串木野市立市来小学校五年 中村 希妃

いちき串木野市立川上小学校五年 藤井 志織

さつま町立薩摩小学校五年 大工園 冠和

薩摩川内市立亀山小学校一年 高橋 いろは

すべりだいさいごはシュツと空とんですこし見えたよ三本のはた

テスト中パルプのにおい風にのり鼻をつまんで空らんうめる

冬の街川内川に白いりゆう自然がうみだす奇せきのあらし

吉川さちかわはたけのことりができるとこ自転車の横で頭出してる

先生せんせいはずっとおこるよプンプンプンプンもうやりません

おいしいよ地元の魚でさつまあげあぶらの中でも元気にはねる

ぼくの町ウミガメ来るよ砂浜に大事なたまごみんなで守る

【入選】

幸田米こうだまいきれいな水でそだててるたくさんあるよ大きな棚田たなだ

ひんやりと冷たい水に足入れるきれいな水だ丸池湧水まるいけゆうすい

ドキドキの0対0のロスタイムボクが決めるぞスーパーゴール

新学期黄色ぼうしにランドセル仲間が増えてうれしさ倍增

石の下カニをさがしてのぞいたら目が合ったあとうしろににげた

さかなつりねらいはヒラメすぐヒットアラカブだったすこしざんねん

薩摩川内市立亀山小学校二年 遠山 大和

薩摩川内市立亀山小学校五年 郡山 知明希

薩摩川内市立亀山小学校六年 宮下 未来

薩摩川内市立城上小学校四年 立野 明衣子

薩摩川内市立川内小学校五年 神崎 正士朗

薩摩川内市立平佐東小学校三年 上村 あおい

日置市立伊作小学校六年 徳田 悠人

湧水町立幸田小学校五年 福岡 匠人

湧水町立幸田小学校六年 原 みいく

いちき串木野市立串木野小学校六年 島津 陽縁

いちき串木野市立串木野小学校六年 竹之内 健人

いちき串木野市立羽島小学校四年 池満 大騎

いちき串木野市立羽島小学校五年 久保 光槻

ねこのくりとかげのしっぽもってきたとんとんとてでつついた

いちき串木野市立旭小学校一年 池田 充希

せみがなく夏もちかづくみどりのはくわがたいっぱいでてきてほしい
いちき串木野市立旭小学校三年 城ノ園 怜

海音がおちこむわたしに声をかけ勇気をくれる大好きな町
いちき串木野市立旭小学校五年 山崎 怜香

生福の町をいろどるおまつりだいろんなかおのみんなのかかし
いちき串木野市立生福小学校五年 宇都 悠真

そ父の家柱にきざむせのきろく昔の自分なつかしむぼく
いちき串木野市立市来小学校四年 時田 大吉

きれいだなかんのんがいけ自まんする見下ろすさくら見上げるさくら
いちき串木野市立市来小学校四年 西 菜々実

この坂を登ると屋根が見えてくるぼくを待つのはお帰りの声
いちき串木野市立市来小学校六年 町田 一晟

うまおどりうまが立ったりあるいたりみんなニコニコシャラシャラおどる
いちき串木野市立川上小学校二年 松澤 結人

ゆったりとつかる温泉心地よくまた来てほしいと湯けむりのぼる
霧島市立日当山小学校五年 今村 璃琥登

ふるさとの空を切り拓くロケットよぼくのゆめも乗せて飛んでいけ
南種子町立中平小学校六年 吉田 凜太朗

かえりみちおはなししながらてをつなぐないてるともだちひっぱって
薩摩川内市立亀山小学校一年 中間 智香

しんかんせんびゅんびゅんはしるよせんだいえきはやいぞはやいぞかっこいいな
薩摩川内市立亀山小学校二年 石元 悠人

かみのこめ新田神社のおたうえさいたくさんみのれみんなの気もち
薩摩川内市立亀山小学校二年 橋口 和華

さくらじまはくりよくがあり大きな体にひびくふんかのあいず
薩摩川内市立亀山小学校三年 新原 綾乃

おじちゃんとおにぎりもって田うえ行くいっぱい動くもとおいしいね

薩摩川内市立亀山小学校五年 亀口 悠翔
六月にたのしい田うえやってくるぐちゃぐちゃ田んぼにみんなでズボリ

薩摩川内市立城上小学校四年 松田 華弥
大人達熱い戦い赤と白勝つのはどっち綱がはりゆく

薩摩川内市立川内小学校五年 菊池 泰智
流れゆく川内川をながめつつ友と帰るよていぼうの道

薩摩川内市立川内小学校五年 盛山 めい
つなひきで応援の声背中押すあともう少し歯をくいしばる

薩摩川内市立川内小学校六年 河野 奏大
朱をまとう南さつ鉄道目に浮かぶまくら木見つけてケンケンパ

日置市立伊作小学校六年 倉園 和佳葉
吹上浜しずまる夜にたまご産み親から子につぐ命のリレー

日置市立伊作小学校六年 芝 一颯
ウミガメのすだつすがたを見守ってさみしさすこし親心あり

南九州市立霜出小学校六年 山中 輝心
ドンドンとたいこの音がきこえるよねぷたまつりがかいまくするよ

南九州市立知覧小学校五年 有川 愛菜
はつきよい！あれる夏場所大相撲いけいけどすこい！声張る私

【佳作】

ソフトボールキャッチボールが楽しいなキャッチの音が大きくひびいた

湧水町立幸田小学校五年 加藤 諒

おいしいなぼくらのまちの幸田米すごくおいしいおかわりするぞ

湧水町立幸田小学校六年 花堂 颯太

太陽へホース水まき空高くできあがるのはにじの橋立

いちき串木野市立串木野小学校五年 有馬 駿

しかられて波がおこっているようで静かに話す母のやさしさ

この坂を朝陽と共にかけあがり帰りは夕陽にせ中をおされし

暑い日の長い道のり登下校いつか私の思い出になる

さつまあげ豆腐と魚使^うつてる魚^おつちうまいチーズ入りだよ

波を背に砂浜走る浜競馬たてがみゆれる春のそよ風

雨^{あめ}あがりかんむりだけの山ちように緑に光るやまやまのみね

つりざおのひきが強くてきたいわくなかなかつれない手にあせにぎる

よしつったまぼろしの魚チビのクエあばれていてもにがさないぞ

岩かげでさおを上下に動かすとばたばたあばれるアラカブとうじょう

ぺたぺたとつてもたかいかべのぼるきょうもれんしゅうぼるだりんぐに

白色の新車がいえにやってきたかつこよかったパパのクラウン

つゆの日にてるてるぼうず作ったよあしたは遠足晴れるといいな

雪がふるみんなでいっしょに雪がっせん勝負に負けず寒さに負けず

学校に行く時にいつも思うんだ生福のみどりはすぐくまぶしい

いちき串木野市立串木野小学校五年 桑畑 和乎

いちき串木野市立串木野小学校五年 白石 萌衣

いちき串木野市立串木野小学校五年 西峯 みちる

いちき串木野市立串木野小学校五年 福丸 莉央

いちき串木野市立串木野小学校六年 森蘭 こはる

いちき串木野市立照島小学校五年 福永 佑

いちき串木野市立羽島小学校三年 今徳 慶人

いちき串木野市立羽島小学校三年 太田 湊斗

いちき串木野市立羽島小学校三年 平石 一翔

いちき串木野市立旭小学校一年 内山 みつは

いちき串木野市立旭小学校二年 高原 琉空

いちき串木野市立旭小学校四年 荒原 一輝

いちき串木野市立旭小学校四年 中野 颯良

いちき串木野市立生福小学校三年 木ノ下 萱央

たのしみはたよれる仲間と信じ合いつらいれんしゅうのりこえるとき

花冷えの夜の遠足ライトアップきれいに映る観音が池

流す汗涙の分だけ強くなる全国へ飛べはまゆうの花

帰り来て声高らかに祭りの子ぎおんのかねがなりひびくかな

びしょぬれでえさのとりのあいあいがもの赤ちゃん見ては姉妹で笑う

きもちいいどろがついたよあちこちにかえりのおにぎりぽてもあるよ

ウォーキング母と笑ってあるくたびばあちゃん思い出の出の道今は母とあるいてるよ

朝に見た父の背中に夢があるマグロと今日の大勝負

しびれる手ミットの中が熱を持つ1番の友感謝の6年

校庭にたて一れつのこいのぼり風さわやかに夢のせ泳ぐ

庭先に今年かぎりのこいのぼり見上げる空と祖父の笑顔と

はなびもちたのしくあそぶなつのよるきれいに光るほしぞらみたい

かいだんをのぼりつかれてみつけたようまのあしあとにつたじんしゃに

卓球がうまくなるためあせながす勝ってもなみだ敗けてもなみだ

いちき串木野市立生福小学校六年 守屋 輝一

いちき串木野市立荒川小学校五年 大崎 陽葵

いちき串木野市立市来小学校四年 尾下 栞

いちき串木野市立市来小学校四年 久保園 太翔

いちき串木野市立市来小学校五年 濱田 千聡

いちき串木野市立川上小学校一年 松澤 結咲

神村学園初等部五年 前屋 茉那

南種子町立中平小学校六年 加藤 葵

南種子町立中平小学校六年 惣津 秀虎

さつま町立薩摩小学校五年 田畑 莉奈

さつま町立薩摩小学校五年 半崎 鷹空

薩摩川内市立亀山小学校二年 波戸 凜乃

薩摩川内市立亀山小学校二年 溝上 風花

薩摩川内市立亀山小学校三年 小牧 結栞

かまくらだ中に入ってラーメンをあったかいよねからいラーメン

クリスマスサンタにもらうプレゼントおもちゃがいいなまちどおしいよる

楽しもうきんちようするながんばあれたいこのぶたいくろうたくさん

小さい子うなぎの放流たのしいな大きくそだって帰ってきてね

目をとじる頭にうかぶふるさとは父のいびきと母のからあげ

戦国へタイムスリップしたみたいかつちゅうに刀戦国村へ

ひっぱるぞおおきなつなにおもいこめかけごえかけてこころひとつに

月きらりカップも見てるふんばるぞ伝統続く大綱引よ

こしき島ナポレオン岩大きなきれいな海もかがやいている

吹上の桜並木を走り抜けむね高鳴らせ新学期待つ

吹上浜ウミガメくるよ夏の夜どこまでもつづく浜物語

大汝牟遅力が宿る4本くす多くの人がおとずれる町

ウミガメがふきあげはまにやってくる母ガメ子どもにきぼうをたくす

ふるさとの星がかがやく夏の空願いかなえる流星群

薩摩川内市立亀山小学校三年 西須 陸

薩摩川内市立亀山小学校三年 山口 悠太

薩摩川内市立亀山小学校四年 松本 葵

薩摩川内市立亀山小学校四年 向原 奏翔

薩摩川内市立亀山小学校五年 西田 結惺

薩摩川内市立亀山小学校五年 山下 奈央

薩摩川内市立亀山小学校六年 江島 悠仁

薩摩川内市立亀山小学校六年 花木 望愛

薩摩川内市立川内小学校五年 本田 海風斗

薩摩川内市立川内小学校六年 赤間 顯篤

日置市立伊作小学校六年 石田 虎太郎

日置市立伊作小学校六年 小野 吉祥

日置市立伊作小学校六年 直野 愛美

南九州市立霜出小学校六年 池之 悠月

ふるさとのお茶畑はうつくしいとれたお茶はおいしいだろう

ふるさとの歴史を語る特攻会館戦争のこと伝え続ける

朝つゆのおりた茶畑太陽の光をあびてかがやいている

茶畑の風景見ながら飲むお茶はいくつになっても大好きな味

やーやーどやーやーどのかけごえが近づいてくる知覧の祭り

南九州市立知覧小学校五年 村永 穂香

南九州市立知覧小学校六年 朝隈 創亮

南九州市立知覧小学校六年 宇多 柚貴

南九州市立知覧小学校六年 西村 夏音

南九州市立知覧小学校六年 松山 芭奈

中学生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

さあいこう私は鳥だ出発だそんな気がしたフェリーの汽笛

いちき串木野市立市来中学校二年 松元 敦哉

【市長賞】

登校中見つけたじいちゃん田植え中気づいてほしくて手を振ってみた

長島町立平尾中学校二年 山下 明里

【県歌人協会賞】

ふるさとの空にひろがるゆうやけは子どもたちのぼくをよびだす

志布志市立伊崎田中学校二年 川添 竜雅

【選者賞】

油照り白球追って声あげる仲間の声が空へと溶ける

日置市立東市来中学校二年 下池 奏汰

【教育長賞】

またすぐに比べ^{くら}てしま^いうの僕^{ぼく}と君^{きみ}僕は僕^{ぼく}でいいはず^{ぼく}なのに

伊佐市立大口中央中学校一年 坂元 心春

【南日本新聞社賞】

昨日まで静かなりけり桜島立ち上^のぼる声「生きちよいもす」

鹿児島市立城西中学校三年 上代 あい子

【特選】

一点に夢中になりし道場に的射る時間僕だけの音

半袖の制服姿に日が差して私の心日焼け状態

荒川の山からみてる星空は無料で見れるプラネタリウム

雨上がりビニールがさを突き抜ける君の笑顔と青空と虹

「ごめんね」と言葉をいうと「だいじょうぶ」そのひとことでぼくは変わった

ごめんねと言えずに今日がすぎていくほんとはずっと仲良くいたい

夕焼けの浜辺を歩く僕たちの影が残った照島の海

種まいてぐんぐん伸びたひまわりが私を見下ろしドヤ顔してる

宿題は一人でやると進むけどみんなでやるとゆうわくがある

ジャンベ打ち汗流す夏全力で奏できった手証のふるえ

夏休みセミの鳴き声に起こされる明日はどんなアラームだろう

青い空自由に泳ぐ鯉幟教えてくれたきままに行けと

星のようアスファルト上で泳いでるきらきら動く夏のこもれび

伊佐市立大口中央中学校一年 平出水 結空

いちき串木野市立串木野中学校二年 諏訪 綾乃

いちき串木野市立串木野中学校三年 平石 憲信

いちき串木野市立串木野西中学校二年 上新 彩夏

いちき串木野市立市来中学校二年 田嶋 凜空

いちき串木野市立市来中学校三年 外藺 衣千寿

神村学園中等部一年 橋口 翔樹

指宿市立山川中学校一年 射場山 桃愛

指宿市立山川中学校一年 松村 春恋

三島村立三島竹島学園八年 野口 かほ

鹿児島市立坂元中学校三年 藤元 遥斗

鹿児島市立城西中学校三年 村上 琴春

鹿児島市立松元中学校二年 上原 遥真

お目当ての本を探して古本屋更なる出会い感謝の一冊

本開き文字の羅列を追いかけて吸いこまれてゆく新しい世界

帰り道晴天の下木の影で二匹のセミも日焼け対策

消えそうな命をもって飛ぶ姿ベッコウトンボ希望の光

森の音透き通っては消えていく少しこらで歌っちゃおう

^{よるなぎ}夜風^{はまぎわ}に水の輪広げきらきらと月の光に魚がはねる

浜際^{はまぎわ}が夕日^{ゆうひ}の橙^{とう}に染まりけり^そ我がなやみまで^わ潮^{しほ}にうつろふ

【入選】

坂道で力いっぱいペダルこぎ友達という競争しよう

日が没み海と夕日が出会う頃独占される私のこころ

サッカーで始めの笛がふくころにみんなの気持ち一つになる

風ながる稲の波うつ夕暮れに影ふみあった二人の帰り道

ただいまと帰ってくればふるさは米のダンスで迎えてくれる

覚えてる絡まる鼓動落ち着かせ^{とき}的を射た瞬間あの日の一本

鹿児島市立松元中学校二年 原崎 暖

鹿児島市立松元中学校二年 山下 莉央

さつま町立宮之城中学校二年 松下 みく

薩摩川内市立祁答院中学校二年 鎌田 由菜

曾於市立大隅中学校二年 新留 美陽彩

長島町立平尾中学校二年 宮瀬 聖真

日置市立東市来中学校二年 永井 丈上

阿久根市立阿久根中学校二年 餅越 れい

阿久根市立阿久根中学校二年 森山 こころ

伊佐市立大口中央中学校一年 福部 湊

伊佐市立大口中央中学校二年 柿木 煌大

伊佐市立菱刈中学校二年 森 瑛太

伊佐市立菱刈中学校三年 平瀬 悠愛

故郷で君と見たあの夕日こそ脳裏に焼きつく青春の一枚

深呼吸相手と目が合いシャトル持ち歓声の中パンと音鳴る

夏空に白いコートと焼けるはだ今試されるみんなの絆

マグロたちはてしない海を泳ぎつづけ地球を回る海のモーター

うちわ風汗拭きながら声張りてさのさの声に街が一つに

照島の海に飛ばした声に乗せ私の思い海へ消えてく

飛び立ちたいあの英雄のようにこの海から夢を叶えるこの海から

ふるさとの学校閉鎖生冠中みんなでつなごう生冠の歴史

日付だけ進んでいくがなかなか進んでいかない問題集

夏の朝草についてる露たちはひとときだけの宝石のよう

笑う君見るたび僕は好きになる何回僕を好きにさせるの

久々に夢の世界に入り込む市内と違う島の生活

初舞台音に命を吹き込んで仲間と共に奏でるメロデー

譜を辿る指の震えも誇らしく明日の歌声心に描く

出水市立江内中学校二年 鳴海 瑛

出水市立鶴荘学園八年 坂元 優月

出水市立鶴荘学園八年 向島 花奏

いちき串木野市立串木野中学校一年 末川 蒼真

いちき串木野市立串木野中学校二年 桑原 勇斗

いちき串木野市立串木野中学校三年 日高 寧音

いちき串木野市立羽島中学校二年 橋野 心音

いちき串木野市立生冠中学校二年 楮山 健

いちき串木野市立市来中学校三年 佐拔 百果

神村学園中等部二年 岩元 雅之介

指宿市立山川中学校一年 中間 朔

三島村立三島竹島学園八年 森園 京雅

鹿児島市立坂元中学校一年 末吉 麗奈

鹿児島市立坂元中学校一年 西川 智基

春だよとつくしがよんだ私たちもつくしのようになれるのかな
手をふればパツと笑ってかけてくるそこで記憶は留まったままで

友達と「またね」を交わす曲がり角夕日が照らす離れゆく影

揺れながら踊るその髪誰よりもたおやかなさま心を見だす

あと五分宿題すると決めてからいくらの時が過ぎただろうか

すいかの種誰が遠くにとばせるか並んで競う真剣勝負

夏の朝歩きたくない通学路昨日なき花今日そこにあり

青春は恋愛だけじゃないんだよ友情だけでもいいんじゃない

夏空にトンボとんでる田んぼ道ふたりの影がのびてゆらゆら

米なくて初の稲作挑むけど父の頑張り実るといいな

【佳作】

ラケットをしつかりにぎり相手見て狙いを定めファーストサーブ

こころが素直になれるいいコンピ赤い夕日とそめられた海

窓の外風に吹かれる白い旗私も空をとんでみたいな

鹿児島市立坂元中学校三年 柿元 紬

鹿児島市立坂元中学校三年 金田 明里咲

鹿児島市立松元中学校二年 小野 柚葉

鹿児島市立松元中学校二年 北園 真帆

さつま町立宮之城中学校二年 豊増 海任

さつま町立宮之城中学校二年 西原 玲唯

さつま町立宮之城中学校二年 原園 詩乃

さつま町立宮之城中学校二年 一ツ木 煌心

曾於市立大隅中学校二年 大村 千愛

長島町立鷹巣中学校一年 福山 ひまり

阿久根市立阿久根中学校二年 大田 吏嵐

阿久根市立阿久根中学校二年 森山 優羽

伊佐市立大口中央中学校一年 久保 愛來

いっだって友達^{ともだち}だけど試合^{しあいじ}時は友^{とも}すらも敵^{てき}だから本気^{ほんき}で

都会から見える月は変わらずに遠くて近い胸のアルバム

駅伝大会チームでつないだピンクのたすききらりと輝く宝石のごとし

あの場所で一心こめたスライディング私の夢時間^{ゲームセット}切れ

試験中静まりかえる教室^{きようしつ}に鉛筆^{えんぴつ}転がす音^{おと}だけ響く

懐かしいガラスの空気虫の声夜の空には大きな図形

父さんのほほを赤^{あか}める焼酎につけあげたしたらあふれる笑顔

もみじの葉秋のころだけ顔を出す黄昏時にくれなゐいっそう

馬たちに光差し込む浜競馬砂浜残る輝きの跡

ひと夏のカメラに写る冒険のアルバム残しほほえみ語る

柑橘湯日頃の疲れ湯に溶かす絆深まる百五十円

黎明の吹き抜ける風に袖揺らし今日も見守る我が通い路よ

追いかけて見失いたる猫一匹ふるさと遠く風の匂いす

思い出す友達^{ともだち}みんなで故郷^{こきよう}の海はしゃいだ声が波にまぎれる

伊佐市立大口中央中学校一年 熊川 優真

伊佐市立大口中央中学校二年 堅山 一護

伊佐市立大口中央中学校二年 中村 勇太

伊佐市立大口中央中学校二年 福元 千尋

伊佐市立菱刈中学校三年 山内 愛佑菜

出水市立江内中学校二年 崎元 煌響

いちき串木野市立串木野中学校一年 下迫田 愛那

いちき串木野市立串木野中学校二年 久木山 理央

いちき串木野市立串木野中学校三年 中村 萌々花

いちき串木野市立串木野中学校三年 中村 佑

いちき串木野市立串木野中学校三年 前潟 瑳夜

いちき串木野市立串木野西中学校二年 肝付 陽香

いちき串木野市立串木野西中学校三年 西峯 ころろ

いちき串木野市立羽島中学校二年 藤崎 壮史

ラストイヤー七十九年の思いのせ新たな年へ一步踏み出す

歌声が一室響き耳届き浄化される負の感情

驚きのプールそうじ暑い中同級生はペンギンスベリ

登校中命の合唱耳すます小さな小さなオーケストラ

夜の道街灯よりもいっぱいの光に集まる害虫パーティー

好きな人考えながら眠る夜起きたら顔色トマトのよう

七日間短い期間で恋人を見つけるためにミンミンミン

暑い日の回るせんぶうき目の前であーとさけび声をふるわせる

坂道をのぼりきったらばやけてるアスファルトには煌めく汗

桃色にあわく色づく桜たち風になびかれ花びらは散る

君の影揺れるゆかたのそでが舞う重なる光夜の町並

夕陽見てブランコで聞く五時の鐘ふるさと感じるオレンジの空

たまに見るそうげい中の桜島かさなる夕日がひとみに残る

秋彼岸夢に出てきてまた消えて知ることならずあの人のこと

いちき串木野市立生冠中学校二年 鍛冶屋 心希

いちき串木野市立市来中学校二年 藤崎 正俱

いちき串木野市立市来中学校三年 木場 一杏

神村学園中等部一年 アミロ 真里衣

指宿市立山川中学校一年 亀割 奈結美

指宿市立山川中学校一年 西元 仁菜

指宿市立山川中学校一年 東 奏穂

指宿市立山川中学校一年 東 幸之介

鹿児島市立坂元中学校二年 今和泉 那月

鹿児島市立坂元中学校二年 五月田 眞歩

鹿児島市立坂元中学校二年 長尾 莉衣奈

鹿児島市立坂元中学校二年 山上 吏央

鹿児島市立城西中学校一年 河末 樹

鹿児島市立城西中学校三年 下窪 現生

故郷ふるさとの揺れる木の葉は美しくこの一時が無になれる時

茶畑の緑をながめて五時間目空にぽつんと雲一つあり

夏祭り初めてのゆかた身をつつみ友達と行く屋台ゆの街や

夏の夜暗い海岸集まって肉焼く僕達酒飲む親達

ランニングふと見る川は夕焼けをまぶしく写す鏡のごとし

雪が降り首もとで寝る猫がいるいやされうなされ過ぎる夜

友達と年に1回夏祭り上をみれば花火があがってまるで宝石

あの夏も部員とともに蹴りこんだしんどいことも笑い話に

ふりしぼるせみの声が応援歌コートに集まる熱い視線

子どものとき大すきだったせんぷうきワレワレタチハウチュウジンダゾ

あのときの毎日通ったただの道今となつては特別な場所

真っ暗な夜道に1本街灯がアジサイ映えるスポットライト

赤土のだんだん畑そのとなり昔の建物古墳ありけり

歌声が今だ脳裏にこだまする春祭かけて止まない鼓動

鹿児島市立松元中学校二年 徳久 悠真

鹿児島市立松元中学校二年 延 暖人

鹿児島市立松元中学校二年 平井 礼菜

霧島市立国分南中学校二年 小川 竜之介

霧島市立国分南中学校二年 永田 悠斗

霧島市立国分南中学校二年 春園 芽依

さつま町立宮之城中学校二年 内山 聖徠

さつま町立宮之城中学校二年 江口 蒼人

さつま町立宮之城中学校二年 西谷 唯央

さつま町立宮之城中学校二年 溝下 雄仁

薩摩川内市立祁答院中学校二年 久保 奏海

志布志市立伊崎田中学校二年 坂元 凜乃介

長島町立鷹巣中学校一年 立元 旺志朗

長島町立鷹巣中学校二年 平 胡遥

どこからか頭に残る音が鳴る風車の町の鐘踊り

きらきらと水面輝く江口川かわずの声音月夜に響く

紅の葉が水面の上におちたとき心の聲がきこえるせつな

帰り道群青色の空の中雲のすきまに輝く光

長島町立鷹巣中学校二年 中村 ゆあ

日置市立東市来中学校二年 井上 紗彩

日置市立東市来中学校二年 下野 優心

日置市立東市来中学校二年 柳園 愛々

高校生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

青空に走る二人の自転車がぶつかる音に夏が揺れたり

県立市来農芸高等学校一年 木ノ本 輝

【市長賞】

夏休み何度も響かすこの音と書き込む楽譜が私の日記

県立川内商工高等学校一年 高橋 ゆきの

【県歌人協会賞】

おお来たねあのねじいちゃん庭先のいつもの会話宝物だった

県立川内商工高等学校一年 原田 蓮望

【選者賞】

読んだ本母に話して盛り上がる昔の母と本でつながる

県立川内商工高等学校一年 鮫島 くるみ

【教育長賞】

初ブラシ「力加減はどうですか」声かければ牛しっぱで返事

県立市来農芸高等学校一年 土屋 洸翔

【南日本新聞社賞】

鶴の群れ冬と一緒にやって来て北の香りが風にまじるよ

県立川内商工高等学校一年 西辻 めい

【特 選】

つるの声冬の始まり寒い朝つるに起こされ羽ばたくわたし

初めての泥の冷たさ足に知り転ぶものかと苗をにぎれる

蝉しぐれお茶の里には駆ける子らすべり台から夏がこぼれた

ベトナムでおいしい米をつくるため田植え実習泥にまみれて

肺炎で死んだ子牛のことと思う悔しさ胸に次につなげろ

兄となる日がついに来て胸はずみ「自慢の兄」になろうと決めた

兄の背に見たるは夢のまぶしさよいつかは我も農を照らさん

朝寝坊アラーム音がにくすぎる登校中は走れメロスだ

秋時雨帰りそびれた教室に君の落書きそつとなぞって

放課後に楽器弾いてるあなたみて私のこころ音をたててる

戻りたい大人になりたい葛藤とないものねだり16の今

夢のため十五で家を出た第二人部屋の壁日焼け跡一つ

友達と「またね。」と声を交わしたら夕日で伸びる影の優しさ

出水中央高等学校二年 永田 心美

県立市来農芸高等学校一年 池水 智菜乃

県立市来農芸高等学校一年 岡村 直輝

県立市来農芸高等学校一年 迫 喜音

県立市来農芸高等学校一年 末吉 昊亮

県立市来農芸高等学校一年 平通 虎太郎

県立市来農芸高等学校一年 峯崎 鍊人

県立串木野高等学校一年 田中 千晴

県立串木野高等学校二年 楠生 莉音

神村学園高等部一年 瀬戸口 心月

神村学園高等部一年 松島 こころ

神村学園高等部二年 南新 琴美

県立明桜館高等学校二年 徳永 みなみ

図書室の陰に隠れた本たちが今ある僕の始まりだった

部室から響く筆の音静かな中キャンバスに描く色が広がる

介護用ベッドに手すり増えて行き消える畑と祖父の面影

誇らしくまだ土残るさつまいも胸に抱えて五歳が歩く

ばあちゃん家行くとびに変わる身長差上からのぞく白髪の間

祖父の家今年の田んぼに蒔く種をくるくる回して豊作願う

堤防を走る自分と川ボート競い合うように風を切っていく

【入選】

ツルのまち冬になると手が震えインジケーターいつも万羽だ

バスの中それぞれ違う制服に元同級生「元気にしてた？」

鶏鳴き祖母と並びて摘む野菜この夏芽生えた夢は農業

寒風の冬をも越えた春野菜気力感じる千両ナスだ

串木野の浜を走りし馬たちが子どもの騎手を跳ねふり落とす

ダイエット五分で終わる決意とかコンビニスイーツ前では無力

県立川内商工高等学校一年 石川 涼介

県立川内商工高等学校一年 大野 心菜

県立川内商工高等学校一年 鮫島 さくら

県立川内商工高等学校一年 島津 葵

県立川内商工高等学校一年 白松 明透

県立川内商工高等学校一年 高原 優月

県立川内商工高等学校一年 持原 光志郎

出水中央高等学校一年 栗巢 耶子

県立市来農芸高等学校一年 瀬崎 徠瑞

県立市来農芸高等学校一年 畠 優人

県立市来農芸高等学校二年 愛甲 理人

県立市来農芸高等学校三年 中菌 輝志

県立市来農芸高等学校三年 福丸 駈流

大好きな子牛を手離すあの瞬間新たな飼い手の笑顔にひといき

ファンファーレ暑い部屋から外へ向け風に任せ吹く空への序曲

青い空最後の夏の日白い雲青い私と白い宿題

息吹くと間抜けな音が鳴り響く音楽室に夕日も沈む

三線を真剣に弾く横顔は私の中の恋のはじまり

ふたをあけひと粒残さずいただきます母への感謝伝わるように

試合中この瞬間^{とき}をまつ決勝点俺のシュートでチーム勝たせる

大空に響く馬と弓の音千本楠も息をひそめる

時はきて過去は未来へと続いてる絶対つかむ未来の切符

試合後の自分の弱さ嘸み締めてまた走り出すなんくるないさ

汗かきのグラス越しに見る日向夏祖母の魔法がとろりとジャムに

さわがしい爺ちゃん婆ちゃん口喧嘩一日一度の風物詩かな

夕日の空あなたと二人の教室で時間だけが過ぎてゆく

川の音夏の匂いが流れてく思い出だけが夕焼けのなか

県立市来農芸高等学校三年 三原 愛子

県立串木野高等学校一年 大平 美咲

県立串木野高等学校一年 出末 純菜

県立串木野高等学校一年 永牧 心結

県立串木野高等学校一年 吉田 小巴瑠

神村学園高等部一年 小田 姫咲

神村学園高等部一年 小園 晟之朗

神村学園高等部一年 出口 姫羽

神村学園高等部一年 森田 姫花

神村学園高等部一年 米村 颯真

神村学園高等部二年 鵜狩 碧衣

神村学園高等部二年 上場 奈美

神村学園高等部二年 中村 愛夢

神村学園高等部二年 福森 陽菜

見上げると夕日の光と一番星だんだん暗くだんだん淡く

休み明け向かう学校蟬のようにじわじわ聞こえる懐かしの声

汚れた手少し誇らし夜の部屋積んだノートに未来を描く

夏の夜こうろぎの音と月明かりわたしを運ぶ夢の中まで

春の駅幼なじみと別れあり行き先遠くまた会いたいな

父さんの船に乗りこみ魚釣り釣れないけれど深く語らう

寝すごして我を^{われ}忘れた^{わす}その時に帰路を教える駅員の声

帰宅した父が手に持つもらいものずしりと重いマグロの頭

家の庭やさしく通るそよ風よ飛ばしておくれ僕の雨雲

将棋には戦い方が多種多様祖父の戦術理解できない

【佳作】

寮の部屋ぬるい風が通り過ぎ南の島の青が展ける

なつかしの見慣れた景色と里帰り方言混じりの幸せ時間

くま川を二人並んでこいでゆくオレンジ色に染まる横顔

神村学園高等部二年 穆佐 美結

県立明桜館高等学校三年 税所 聖那

県立明桜館高等学校三年 松園 悠羽

鹿児島情報高等学校一年 久木山 柚奈

県立川内商工高等学校一年 桐山 雄琉

県立川内商工高等学校一年 久保 光巧

県立川内商工高等学校一年 窪田 智哉

県立川内商工高等学校一年 志戸岡 智己

県立川内商工高等学校一年 東郷 十喜

県立川内商工高等学校一年 淵上 陽向

出水中央高等学校一年 朝戸 尊人

出水中央高等学校一年 井原 陽菜

出水中央高等学校一年 沖田 陽菜

去年まで分からなかった大変さ今年はわかる親の存在

だんだんとかみがなくなるお友達次はだれがかられるだろう

夕日暮漆黒のツル眩し気味羽音はあともなくて影が伸びゆく

星空に島の言葉を叫んでも電波届かぬ君の携帯

こわばった肩にふわりと「よろしくね」高校入学光がさした

こらえたる涙の奥に父の声寮生活も励めば楽し

撫でるたび顔ゆるむ牛に笑みこぼれ苦しき日々も力に変わる

屋久島や汗にまみれた山頂で広がる世界に心震わす

実習の合間に集う木陰にて言葉少なに風を感じる

最後の年机囲みて馬鹿話笑顔あふれて教室包む

灯ともる羽島の海に月映えて波にきらめくふるさとの夜

夢届かず農の道へと歩み出す苗に託した新しき未来

旅の夜に寝かせぬように話しかけそのたびおきる不機嫌な友

雨の中体育館での体育祭白熱したな俵運搬

出水中央高等学校一年 小濱 将大

出水中央高等学校一年 中屋 悠太郎

出水中央高等学校二年 元島 匠之助

出水中央高等学校三年 平 範幸

県立市来農芸高等学校一年 伊地知 陽向

県立市来農芸高等学校一年 尾辻 結斗

県立市来農芸高等学校一年 五反田 翔真

県立市来農芸高等学校一年 染川 岳大

県立市来農芸高等学校一年 田原 瑠美

県立市来農芸高等学校一年 邑山 こはる

県立市来農芸高等学校一年 山崎 沙世

県立市来農芸高等学校一年 若宮 有悠斗

県立市来農芸高等学校三年 伊藤 響樹

県立市来農芸高等学校三年 内田 貴一

思い出す名^{なづ}付けて愛^{あい}したあの子牛^{こうし}あふれる思い空の彼方へ

君と遇い募る思いを口にして逃げゆく影に立ちつくすだけ

時満ちて無邪気な壁の落書きは消せずそおっとこの手でなぞる

浦波が我の足跡消していくあなたのよこで弾むよ心

届^{とど}かない画面^{がめん}の向こう夢抱^{ゆめいだ}く淡い希望^{あわ きぼう}を心に秘^ひめて

目の前の楽譜を開き指広げ思いを込めて音につなげる

夏祭り人混みかきわけ君と見た空に上がった打ち上げ花火

夕暮れ後蛍の光道^{みちしるべ}標点^{みちしるべ}いては消える信号機かな

赤信号焼ける肌と吹き出す汗影を探して青をじっと待つ

蜘蛛の糸雨粒まとう真珠かな歩む道には七色の光

忘れない日々の練習積み重ね勝利掴んだあの瞬間

夕日見た中学最後の帰り道二人で歩いた一本の道

たんぼ道茜の空を背に受けてそっと聞こえる夕焼け小焼け

チューニング夢の音色を響かせた思い描^{えが}くは音甲子園^{おと}

県立市来農芸高等学校三年 春成 芽奏

県立串木野高等学校三年 久保 駿也

県立串木野高等学校三年 黒木 瑠衣

県立串木野高等学校三年 中島 千愛

神村学園高等部一年 今村 愛梨

神村学園高等部一年 岡田 裕己

神村学園高等部一年 柏木 莉姫

神村学園高等部一年 茶縁 海音

神村学園高等部一年 中山 杏凜

神村学園高等部一年 永田 虹花

神村学園高等部一年 野元 結愛

神村学園高等部一年 三好 瑛美愛

神村学園高等部一年 三輪 光毅

神村学園高等部一年 山下 瞳空

七夕の夜空に輝く天の川空の向こうで会えているかな

ページめくる朝の光がゆつくりと心にそっと安心くれる

帰^{かえ}り道^{みち}家の右^{みぎ}には桜島お帰^{かえ}りなさいと言^いわんばかりに

セミの音青空の下に光る汗今年も暑い夏の始まり

夕暮れに木漏れ日漏れる帰^{かえ}り道光が記憶を呼び覚ます道

真夏日に海岸走る馬たちの足音響く浜競馬の日

笑いあい顔を見合わす夏の夕二つ並んだかばんが揺れる

青い空輝く青春一度きり一球入魂響く声援

目を閉じて己の未来へ想い馳せ、この分岐点悔いをつくるな

夏の風風鈴チリンゆらゆらと今日も平和だこの先ずっと

始まりは扉が開いたその瞬間私のなにかが動き始めた

米作り今年もやるぞと気合い入れ開始そうそうもうやめたいな

冬休み祖父と行った初詣すべてをこめて引いたくじ引き

木陰から差し込む光懐かしむ心和ますブランコの音

神村学園高等部一年 吉元 樹里

神村学園高等部二年 川本 秀夜

神村学園高等部二年 田上 晴翔

神村学園高等部二年 前原 夢奈

県立明桜館高等学校二年 植村 佑奈

県立明桜館高等学校二年 西 貞信

県立明桜館高等学校三年 阿部 かな

県立明桜館高等学校三年 川畑 美晴

県立明桜館高等学校三年 永仮 璃音奈

県立明桜館高等学校三年 福元 愛莉

県立明桜館高等学校三年 柳崎 由美里

県立川内商工高等学校一年 愛甲 蓮

県立川内商工高等学校一年 大屋敷 凌真

県立川内商工高等学校一年 上白石 悠哉

曾祖父の手入れ忘れ無人家の静かに呼んだ庭の畑が

里帰り祖父とかわした言葉のねなまり具合は天下一品

始業前朝日を背中に浴びながら全力でこぐ自転車ペダル

鬼ごっここっそり逃げた秘密基地セミの声聞き空を見上げた

おすそわけ愛の薬味が増えていく豪華になった質素な湯豆腐

ふるさとに新たな建物うれしいが自然さうすれ悲しき気持ち

県立川内商工高等学校一年 川畑 陽優

県立川内商工高等学校一年 川畑 蓮

県立川内商工高等学校一年 神戸 大輝

県立川内商工高等学校一年 迫 蓮斗

県立川内商工高等学校一年 杉下 遙希

県立川内商工高等学校一年 西尾 大空

一般の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

さあ今日は何からやろうひとり身の朝の段取り猫に語りぬ

いちき串木野市 中馬 朋子

【市長賞】

田植え日にマシンの時代とは言うも子孫賑わう四角の手植え

日置市 益満 和子

【県歌人協会賞】

大漁と無事の願ひを掌に父は鮪船の纜をとく

たなぞこ

ともづな

いちき串木野市 川口 京子

【選者賞】

炎天の建設現場の作業員ビール壘色の笑顔を誇る

始良市 塩満 暁洋

【教育長賞】

船員の父の代わりか島平っ子おんぶをせがむ昼の教室

薩摩川内市 笹原 武幸

【南日本新聞社賞】

スルメ喰みお猪口片手に焼酎を呑む囲炉裏の真中は亡父だけの席

は

さけ

ゆるい

まなか

ちち

鹿児島市 本車田 省三

【特 選】

祖父の名が目^めに飛び込んだ碑^{いし}に寄せて80年の想いを手繰る

何処^{いずこ}より流れ着きしかスニーカー^{てとら}テトラポットの脇に海を見ている

機首^{きすう}あがる希望に満ちて嫁ぐ子は東の空へいま飛び立ちぬ

鹿児島産ブリやハマチに聞いてみる近頃どうなふるさとの海

モミ種も蒔かぬうちから米予約見えぬ農政不安が支配す

青々とそよぐ稲穂が呼び起こす田植え機操る祖父の姿よ

五十年離れし今も島唄のしらず出でくるひと息つけば

すんなりとゆかぬ断捨離 眠りるし藤の着物がふかく息する

百四歳^{ひゃくよん}に逝きたる母の口ぐせは「故里^{しま}が一番粗食が二番」

君笑うコンビニ裏の防波堤飲みほすコーラ陽に染まる

月満ちて産まるる児のごと開花せりカサブランカの匂ひ立つ朝

噴火する火の島ふたつ夏蝶は蹟きながらそよ風拾ふ

夕の陽の光の道を横切りて帰路を急ぐか伝馬船ゆく

いちき串木野市 猪之鼻 浩二

いちき串木野市 上中 イクコ

いちき串木野市 蛭原 尚子

いちき串木野市 新町 美月

いちき串木野市 火野坂 幸子

神村学園専修学校看護学科一年 前花 星南

鹿児島市 泉 アサノ

鹿児島市 門松 弘子

鹿児島市 里山 喜和子

鹿児島市 中村 かずや

鹿児島市 山口 あさ子

霧島市 山口 サキ

薩摩川内市 嶋崎 瞳

摩り切れて文字も薄るる歳時記に亡母^{はは}の声してページをめくる

朝露を硯に集め短冊に「子らに幸あれ」と書きし父顕つ

ふるさとの蒼きひかりに目を細め夢をほどこいて机にむかう

ふるさとの早苗の知らぬ米騒動水田の水清く流れむ

御先祖の守りし棚田は広々と形を変えて兄らと受け継ぐ

東風^{こち}に向かひ立つ二代目の初船出流るる汗にやる氣満ちたり

庭先の夫と息子は散髪のリズム軽やかに会話も弾む

【入選】

眼下に田植え待ちいる幾多もの水鏡あり青空うつす

りんご^{あめ}飴^こね^{いまおとな}だった娘は今大人びてさのさ^{ひび}響^{とき}けり時をこえつつ

義兄^{あに}の訃報今日は娘の誕生日笑顔で食べるしょっぱいケーキ

本当に地球は丸いの？問う君を連れて眺める白浜の青

外灯が道路に写す大木の枝葉は踊る音なす風に

梅雨前に妻のセーター陰干しに貴方の匂いクチナシに似て

薩摩川内市 新屋 純子

薩摩川内市 堀段 能婦子

尚志館高等学校看護科専門課程一年 柿元 優太

曾於市 脇丸 洋子

日置市 荻 朝子

日置市 坂口 和世

日置市 西園 佳子

いちき串木野市 池野 ナミ

いちき串木野市 大竹 佳代

いちき串木野市 小野 トモ子

いちき串木野市 上小鶴 都希

いちき串木野市 黒江 康子

いちき串木野市 相良 一洋

焼酎そつ飲んでチケアゲ食らう我が旧友ともと都会の宵は早更け行く

草藪に埋もれし石仏今も尚微笑み浮かべ見守り続ける

先頭せんとうで来た孫まこの顔新港かおしんこうのゴールしゅんかんの瞬間なみだ涙で見えず

照島の上空はるか哨戒機二才は叫ぶへびこぶたあと

暗き墓ぼに眠りし亡母よ蒼空へふるさと遊べ散骨なせり

孫三人寄れば文殊の知恵の手紙われの八十二歳誕生祝ふ

妻からの特ダネ娘に初彼氏じんわり霞む桜島かな

ふるさとの友と語らふ電話口たがひの夫の病に終止

降り立てば瞬時に口突く鹿児島弁心は更に家族へと飛ぶ

祖の残す田畑継ぎし息子この迷い稲穂垂るるを見極めおりぬ

ふる里の緑なす山大木に集まる蟬の声降り注ぐ

守宮にも帰巢本能あるごとく去年と同じ台所の窓

せんもとは残すべき種しゅをつなぐべく放り置かれても球根で生く

鍼を打ち灸を据ゑる俯せのわれに届きぬ「母の日の花」

いちき串木野市 新町 正

いちき串木野市 中島 知洋

いちき串木野市 平田 隆一

いちき串木野市 前屋 浩文

始良市 宮之脇 真紀子

鹿児島市 辻 優

鹿児島市 濱崎 健一郎

鹿児島市 外園 眞佐子

肝属郡肝付町 小玉 秀行

肝属郡肝付町 野崎 久子

肝属郡肝付町 林 絹子

肝属郡肝付町 平野 ひな子

霧島市 稲満 洋子

霧島市 川崎 興子

山が噴く南に北に カルデラの底ひの街の夏が閑けゆく
 馬喰の郷右衛門爺は明治生まれ囲炉裏横座にキセルたばこで
 一面の青く波打つ風景と君の笑顔がシャッターチャンス
 祭りより虫のさざめく夜が好き田舎の夏に帰りたくなる
 夜風ぬけひとつ響いた風鈴が帰っておいでと田舎にささやく
 サアサアと棒打ち鳴らし鎌かざし実り言祝ぐふるさと祭り
 亡き母と屋敷に植えた深ねぎを今年一人で庭先で育つ
 兄逝きし思ひ出すなり亡き母をはさみ川の字で一夜を寝ねき
 串港やまぐろ漁船の大漁旗出船入船今日も賑わう
 磯伝い石蓐搔く母若かりし群青の海恋しふるさと

霧島市 南 房子

薩摩川内市 山之内 恵子

尚志館高等学校看護科専門課程一年 有村 怜奈

尚志館高等学校看護科専門課程一年 久木田 りの

尚志館高等学校看護科専門課程一年 児玉 栞夏

西之表市 古澤 勝

日置市 青木 次子

日置市 坂口 勝美

東京都西東京市 久保 凱彦

埼玉県所沢市 満菌 凉一

留学生の部

闇に隠れ世界に知られず紅^{あか}満ちる青天白日^{せいてんはくじつ}たなびく国旗

神村学園専修学校日本語学科二年 張^{チ ヨウ} 宇成^{ウ セイ}

東洋の真珠の輝き海の底殻を閉ざして光失う

神村学園専修学校日本語学科二年 チャン^{チ ャン} デイ^{デ イ} ハン^{ハ ン}
CHAN DICK HANG

なおるようおいのりをしてしゃしんみるしゅじゅつが**ん**ばれ日本のお父さん

神村学園専修学校日本語学科二年 ブッダ^{ブ ッダ} シタ^{シ タ} クマリ^{ク マリ}
BUDHA SITA KUMARI

雨季の村緑のはたけカエル鳴き花のにおいといっしょに帰る

神村学園専修学校日本語学科一年 エー^{エ ー} シヤッ^{シ ヤ ッ} モン^{モ ン}
AYE MYAT MON

応募校一覧 計五十四校

※市町村は五十音順
学校は、小中高の順にて掲載

○始良郡

湧水町立幸田小学校

○阿久根市

阿久根市立阿久根中学校

○伊佐市

伊佐市立大口中央中学校
伊佐市立菱刈中学校

○出水市

出水市立江内中学校
出水市立鶴荘学園

出水中央高等学校

○いちき串木野市

いちき串木野市立串木野小学校
いちき串木野市立照島小学校

いちき串木野市立羽島小学校
いちき串木野市立旭小学校

いちき串木野市立生福小学校
いちき串木野市立荒川小学校

いちき串木野市立市来小学校
いちき串木野市立川上小学校

いちき串木野市立串木野中学校
いちき串木野市立串木野西中学校

いちき串木野市立生冠中学校
いちき串木野市立市来中学校

神村学園初等部

神村学園中等部

県立市来農芸高等学校

県立串木野高等学校

神村学園高等部

神村学園専修学校日本語学科
神村学園専修学校看護学科

○指宿市

指宿市立山川中学校

○鹿児島郡

三島村立三島竹島学園

○鹿児島市

鹿児島市立坂元中学校
鹿児島市立城西中学校

鹿児島市立松元中学校
県立明桜館高等学校

鹿児島情報高等学校

○霧島市

霧島市立日当山小学校
霧島市立国分南中学校

熊毛郡

南種子町立中平小学校

薩摩郡

さつま町立薩摩小学校
さつま町立宮之城中学校

薩摩川内市

薩摩川内市立亀山小学校
薩摩川内市立城上小学校

薩摩川内市立川内小学校
薩摩川内市立平佐東小学校

薩摩川内市立祁答院中学校
県立川内商工高等学校

志布志市

志布志市立伊崎田中学校
尚志館高等学校看護科専門課程

曾於市

曾於市立大隅中学校

長島町

長島町立平尾中学校
長島町立鷹巣中学校

日置市

日置市立伊作小学校
日置市立東市来中学校

○南九州市

南九州市立霜出小学校
南九州市立知覧小学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

南九州市立立鷹巣中学校

萬造寺 齊（まんぞうじひとし） 明治19年（1886）羽島生れ。

明治38年(1905)18歳の時、第七高等学校に入学。与謝野晶子・寛に師事し、『明星』の歌人として「七高に萬造寺齊あり」といわれる。

明治41年(1908)21歳のとき、東京帝国大学英文科に入学。その後、与謝野寛の門下生になる。この時石川啄木、高村光太郎、北原白秋など多くの歌人・詩人と交流を行う。

東京大学在学中に『明星』が廃刊になり、森鷗外を中心として『すばる』が発刊される。大正3年(1914)独力で『我等』『街道』を刊行。京都に拠点を置き活躍した。戦後、歌集『萬造寺齊選集』10巻が刊行される。

大正7年(1918)31歳のときに郷里に帰る。

昭和32年(1957)7月9日、療養所で70歳で亡くなる。

同年11月、串木野市主催、鹿児島県後援の文学葬が母校である羽島小学校で行われる。

昭和35年(1960)3月、羽島崎神社境内に歌碑が建設された。

歌碑には、萬造寺齊の歌集から作家である佐藤春夫が選んで新村出博士が揮毫した3首の歌（※）と、友人である矢野峰人による歌碑を建てたいきさつが刻んである。



歌碑と入賞者の短歌プレート



萬造寺 齊 生誕の地

※望郷歌

行かまほし悩みいたづき振りすてて

南の海辺遠きふるさと

ふるさとや海のひびきも遠き世の

こだまの如し若き日思へば

ふるさとの浜の砂原小石原

生きてふたたび踏まむ日なきか